

学びの灯

ようこそ、広島都市学園大学 子ども教育学部へ

子ども教育学部には、様々な研究をされている先生方がいらっしゃいます。

このページでは、毎月、一人一人の先生方の思いや考え方などを記していただき、読んだ皆さんの心や頭に「学びの灯」をともします。

一つ一つの「灯」は、いくつか集まると、きっと大きな明るさとなり、皆さんの未来を明るく照らすものとなるでしょう。

また、ある「灯」は皆さんの拠り所となって、どんなときであっても、希望と温かさを保ち続けてくれるでしょう。

さらに、皆さんが「新しい灯」をともし、多くの人々の未来を明るく照らすことに役立つことでしょう。

さあ、今月は、どんな灯でしょうか？



2種類の教育改革に気づいていますか

子ども教育学部・教員 阿部好策

安倍首相は学校教育を良くしようと、文部科学省とは別の団体である教育再生会議（委員会）を設けました。めざすは「子どもの高い学力と規範意識を育てること」です。学力を高めるためには教師や学校も競わせたいと、平均点や順位を公表する全国学力テストを復活させます。社会生活上のルールを守る「規範意識」では、道德教育を重視し、いじめっ子への出席停止処分も主張します。この改革を、教育問題の「早い解決」をめざした努力だ、とほめる人がいます。しかし、「成績は良くても立派な人間にはならない」といわれてきた学力の中味は見直しません。また、老人犯罪や親の虐待もふえたのに、子どもにだけ規範意識？どうも考え方が単純です。

本欄では「学力」と関係するもう一つの教育改革を紹介します。全国学力テストは教師や学校まで競争させるため、子どもをテストづけにして「解法」を磨くだけの学校も出ます。文部科学省はこの全国テストに反対でしたが、「めっちゃむずかしい」B問題も出すことで内閣と妥協しました。「競争させればいいのではない。学力の中味を立派なものに変える」といいたいのでしょう。要するにB問題には、教育専門家としての文科省の良心が反映するわけです。

さてその中味です。各国5千人ずつの国際学力調査で、日本は教科書知識の暗記力では常に上位でした。しかし物価変動とか地球温暖化などの現代課題を考える記述問題では、白紙答案が多い。だから日本の学力は、暗記知識をテスト期間だけ潜伏させる「東アジアの病気の学力」と批判されます。そこで「花火大会を調べてまとめる編集会議のあり方」（国）とか「バーゲンセールも考慮した買い物の仕方」（算）のようなく現代生活的>B問題の登場です。

ただ、今の国際的な教育機関では、例えば借金だらけの国を復興させるべく、グループで話し合った上で、一人ずつの復興計画案を出させるようなテストも準備されています。計算機やパソコンや外国語アクセス能力を自由に駆使させ、「創造的に議論する」ようなチームプロジェクト能力の検査が行われるわけです。日本のB問題とはだいぶん距離を感じます。